

Yamakado News Letter



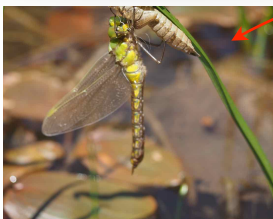
羽化の瞬間を見る児童ら 5/23



アサヒナカワトンボ 5/17



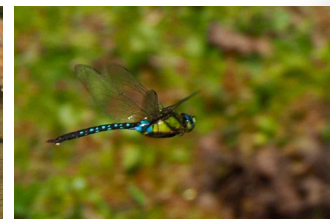
サラサヤンマ羽化 5/17



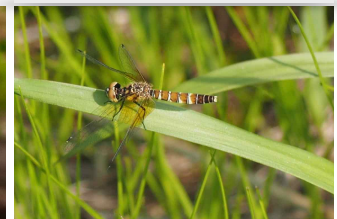
クロスジギンヤンマ羽化



クロスジギンヤンマ産卵 5/24



上空を飛ぶクロスジギンヤンマ♂



ハッチョウトンボ♀ 5/27

トンボの季節到来

5月になって、次々と色々なトンボが飛び交うようになり、森も随分賑やかになってきました。

5月23日、永原小の児童が山門全校学習で来訪し、各学年ごとに生の自然を観察しながら学びを深めました。1年生が山から降りてくると、丁度楽舎の付属湿地ではクロスジギンヤンマの羽化が始まっていて、しばらくみんな真剣な様子で羽化の様子を観察していました。

5月8日には「生物多様性びわ湖ネットワーク」から3名が来訪。この

ネットワークはSCR活動での企業連携で、トンボをテーマに生物多様性保全の活動をされている県内7企業の団体です。日本には約200種のトンボが生息しています。その内、水環境が多様で豊富な滋賀県には約100種のトンボが生息していると言われています。しかし、近年では生息数が減少し、絶滅が危惧されている種もあります。こうした希少なトンボを次世代に残すための保全活動や、100種全種を確認することを目指して調査活動をされています。引き継ぐ会もこの団体の活動に賛同し、協力していくこととなりました。

ササユリ開花いつ？

3月下旬から5月上旬にかけては、例年に比べて気温が低い日が多く、ササユリの生育も少し遅れている様子です。過去5年間で最も開花が早かったのは2015年で、湿原のササユリは

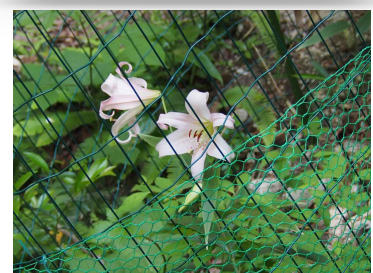
5月26日に開花を確認しています。最も遅かったのは2014年の6月3日です。その2014年よりも今年の春の気温は低めで推移しました。さて、湿原のササユリが開花するのは何日でしょう。



自然学習で来訪した永原小1年生



生物多様性びわ湖ネットワーク来訪



過去5年最も開花が早かった2015年

アカガシ育林 2年目

5月11日、大津祭保存会から23名が来訪。昨年からの山門水源の森で曳山の修理材に必要なアカガシを育林していく活動が始まり、今回は2回目です。この辺りのアカガシ林は昭和30年代まで薪や炭として活用されていましたが、その後の60年ほどは放置された状態です。アカガシなど広葉樹は伐ると残った株から萌芽が生えます。それが放置された60年の間に直径20センチもの太さに成長し、株立ちになっています。その株立ちから質のいい株を1本だけ残し、残りを切り倒す作業を昨年からは行いました。伐るとまた萌芽が生えますので、今回はその芽欠き作業をされました。



大津祭保存会の皆さん



芽欠き作業



プレート取り付け

連日続いた金網掛け作業 今年のササユリは期待できます

4月は主に株が集まった区画を防獣ネットで囲う作業を行いました。5月からはネット区域外に発芽するササユリを毎日探し、花芽の付いた株が見つければ頑丈なガーデンフェンスを、花芽がないが複葉のものは金網をかけました。毎回見落としがないか何往復も見回りますが、翌日には必ずノーマークの立派な株が何本か見つかります。夜のうちにタケノコのようにビュンと芽が伸びているのではと想像しているのですが、一度インターバルカメラで観察してみたいものです。こうして見つかった株もガーデンフェンスで囲い、シカの食害に備えました。

このように手間的にはギリギリの人数ですが、今年も何とか防獣対策を進めることができました。また2014年から取り組んできたシカの個体数管理も効果が出てきているように感じます。防獣対策をしていない区域でも食害被害を免れた山野草が多数生育しています。

これらの相乗効果で今年の湿原コース沿いは沢山のササユリが花を咲かせると思われます。例年の開花ピークよりは少し遅れると想像していますが、6月上旬には見頃を迎えると思われます。花を正面から観察できる木道も設置しましたので、ぜひササユリ観察にお越しください。

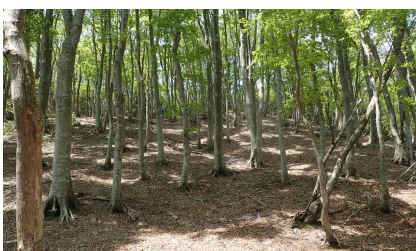


連日続いた金網掛け作業 Photo by 藤本H



毎日見回っても、翌日新たな株が見つかる

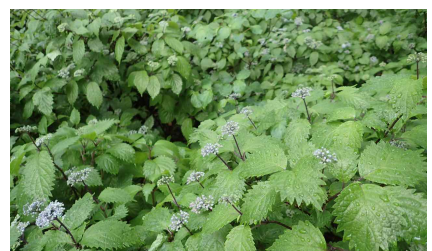
今月の森の様子



県境尾根のブナ純林の様子 5/3



コナラの新芽が一斉に開き、山が白く染まった 5/8



南部湿原のコアジサイは3分咲き 5/28